

## 2012年度 関西学院 聖和幼稚園 学校評価を終えて

聖和幼稚園は、120年に亘り子どもたちを中心に据えたキリスト教保育を実践してきました。昨年度は、創立120周年を迎えたことで、この学校評価においても本園の教育理念・キリスト教保育の根幹を問い直し、省察しました。

そこで、今年度も引き続き「キリスト教主義教育」を評価項目に選定し、本園の保育の振り返りを致しました。また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、「教育課程・指導（保育内容）」「保健管理」「保護者、地域との連携（新規）」を設定し、昨今、保護者からのニーズが高い「子育て支援」を重点項目としました。

昨年度に継続して精度の高い振り返りをするために、保護者、教員のアンケート調査と客観性を持たせるために一昨年度から導入した聖和短期大学教員、評価情報分析室室長・副室長による「学校関係者評価」を今年度も実施しました。また、評価者の皆様による保育実践の参観、園長との懇談も行い、本園の教育理念・教育思想に対するより深い理解をしていただくことができたと思存します。

結果、本年度も本園の「キリスト教主義保育」のあり方については、学校評価を実施して以来、継続して高い評価が得られました。今年度は、特に外部講師（幼稚園教育要領の執筆者）を招聘し保育参観をしていただき、園内研修において多くの助言をしていただけたことも、保育の質向上に向けて我々の士気が高まる好機となりました。この対応も高い評価を受ける要因となっていることを憶え、次年度も継続して研修の時を大事にしたいと思っています。この他に「教育課程・指導」「保護者、地域との連携」「子育て支援」においても高い評価が得られました。しかしながら、これらの評価に慢心することなく、今後も一人ひとりの子どもたち中心に考えた保育と、保護者の皆様との強固な連携体制をしっかりと築いていきたいと考えております。

一昨年、昨年といくつかの課題が見出された「保健管理」においても、今年度は、より園医、看護師、教諭が連携して保健管理に関する情報提供の機会を増やしてきましたが、未だ高評価に繋がっていないことは省察の大きなポイントと考えております。今後は、より工夫をもって保健管理の徹底と情報共有をしていく所存です。

以上、これらの結果を一つひとつ精査し、より良いキリスト教保育、より良い教育環境の構築に務めてまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

2013年3月22日

関西学院 聖和幼稚園  
園長 出原 大

## 学校評価シート

### 【キリスト教主義教育】

#### 現状の説明

本園は、下記の3つの教育方針を柱にしてキリスト教保育を行っている。

- ・子ども一人ひとりが、イエス・キリストによって啓示された神様の愛を感謝と喜びをもって受け止め、自らがかけがえのない存在であることを知る。
- ・子ども自身が、何事にも意欲的、主体的に取り組む自律的な精神を培うとともに、お互いの個性の相違や多様性を認めながら共に育ち合うことのできる思いやりの心を育む。
- ・神様の創造された自然の中でいろいろな体験を通し、豊かに情操を涵養する。

キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践においては、神から命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を行っている。教諭も日々キリスト教保育の実践に努めている。

保育の中で大切に位置付けている礼拝は、日曜日に礼拝を行い、日々の保育でも形式にこだわらず（話し合いの中での祈り、食前の祈りなどを含め）礼拝を行っている。また、子どもたちは教諭と共に、友だちと共に、主体的に祈ることを大切にしている。

本園では、毎朝、教職員が心を合わせ祈りの時を持って保育、業務を始めている。そして、保育活動を担う教諭は、教師会でのキリスト教保育の勉強会、また、キリスト教保育の研修会にも参加している。

保護者に対しては、入園前の新入園児保護者会、新年度当初の保護者会総会でキリスト教保育についての話をしている。また、クリスマス前には、「アドベント保護者会」と称する礼拝・講演会を行っている。その他のキリスト教に関する行事（母の日、花の日、収穫感謝礼拝など）は園通信にて、由来、意味、大切にしていることなどを伝えている。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

昨年度の学校関係者評価（補足説明、評価者との意見交換を受けて）で「キリスト教主義教育については、聖和幼稚園はしっかりとできており、現状を維持するとともに、さらに日々研鑽を積んで取り組んでほしい」と意見をいただいた。

キリスト教主義教育（キリスト教保育）の実践は、幼稚園全体としてキリスト教主義教育（キリスト教保育）の理念をの共有し、そして実践することが重要である。今年度は、具体的には「神様、イエス様に愛された子どもたち一人ひとりに『まなざし』を向けて保育する」ことに特に気をつけながら保育を行っている。そして、日々保育を「自主的に育つ」「共に育つ」「喜びを持って育つ」の観点を持って振り返り、省察している。

「キリスト教保育の理念を大切に考えている」における教諭のアンケートは100%肯定的に、キリスト教保育の根幹である「一人ひとりを大切に

し、愛情を感じられる教育の実践」も 100%肯定的に回答している。教諭は、キリスト教保育の理念を共有し、一人ひとりの子どもをしっかりと受け止めて保育していることの自負が数値に表れている。

保護者は「キリスト教保育の考え方の共有」では99%が肯定的に回答し「キリスト教保育で大切にしていること」を理解していただいていると思われる。また、「子ども一人ひとりを受け止めて保育をしている」では97%が肯定的に回答しており、キリスト教保育の実践も評価できると考える。

### 改善の具体的方策

評価、分析から判断して、今まで同様、キリスト教保育の理念の共有ができるように、教諭に対しては、キリスト教保育の研修会に参加すること、日常の勤務においても理念の共有、キリスト教文化に触れる機会を持っていきたいと思う。また、保護者に関しては、毎年新たな気持ちで、講演会、手紙等からキリスト教保育の大切にしていることを伝えるようにしていく。

キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践では、キリスト教保育の核となる一人ひとりの子どもたちを大切にする観点からも日々の努力の積み重ねが重要であると考えます。そして、今後もキリスト教保育の理念を基に、保育実践、省察を行い、子どもたち一人ひとりの心に添った愛情深い保育を心掛けていきたい。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 教育方針を明確にしてキリスト教保育を実践していることは、聖和幼稚園が創立より受け継いできている大きな特色であり、使命でもあります。そのことについて、保育者が自負されて保育をおこなっていることは大きく評価できます。
- 「一人ひとりを受けとめて保育をしている」に対する数値は保護者からの信頼の大きさが伺われます。また、保護者への質問3にあるように、具体的なキリスト教保育の考え方を様々な手だてで伝えていることは、改善が進んでいると評価できます。ただ、この質問の回答からは「考え方を共有している」とは言い切れないかとも思います。「どちらかと言えば」と考えている保護者が存在していることを念頭に置いて、どのように保護者とコミュニケーションをとっていくか、具体的な方策を考えていくことも必要かと思われまます。
- クリスマス礼拝は子どもたちから多くのメッセージを受け、大きな役割を果たしていると感じます。クリスマス礼拝を始め、キリスト教に関する行事や園独自の取り組み（子どもの存在や誕生日を感謝する等）の意味を保護者と次世代の保育者にしっかりと継承していくことを望みます。
- 改善の具体的方策ですが、「昨年度の評価に現状を維持して研鑽を」とあり、書かれている内容が昨年度と全く同じになっております。今、実際に取り組んでおられることや評価して改善したこと、継続課題への取り組み等を具体的に示されることが望まれます。

- キリスト教主義教育については、理念が明確にされ、教諭の間で広く共有されています。保護者の間でもよく理解され、支持されているのがうかがえ、評価できます。
- 聖和幼稚園の掲げるキリスト教保育の理念や実践が教職員、保護者ともに理解され、高く評価されていることがうかがわれます。ただ評価はやや総合的、抽象的なレベルに留まっていますので、今後はその理念を実現するより具体的な実践のレベルで目標を定め、点検評価されてゆくと良いのではないのでしょうか。
- 保育者が、キリスト教保育の理念の理解とその実践に日々努めていることは評価できます。
- 子ども一人ひとりに『まなざし』を向けつつ、三つの観点から日々の保育を振り返る方法は、子どもの成長や課題を把握するとともに、保育者自身の成長にとっても有意義であり、大変評価できます。
- キリスト教保育の理念や保育方法について、保育現場での実践をもとに文章等の形でまとめていくことが望まれます。

## 学校評価シート

### 【教育課程・指導】

#### 現状の説明

本園はキリスト教保育を実践している。

教育方針は、「キリスト教主義教育」の項目でも触れたとおりであり、それらを柱にして教育課程を作成し指導計画を立てている。そして、月案、週案、そして日々子どもの育ちを把握し子どもの姿に応じて日案を作成し保育実践をしている。週案では一週間を振り返り、一人ひとりの子どもの姿を記録している。

保護者には、月の保育目標や活動内容を、毎月発行する園通信にて伝えている。

本園は、保育内容は一人ひとりのあるがままを受け止め、育ちを大事に考え、遊びを中心とした、ゆったりとした保育計画を立てている。そして、外遊びを重要と考えており、その機会と環境を整えている。

幼児教育は、環境による教育といわれる。教諭は、人的（自分自身）、物的環境について、日々、子どもの姿と自分自身の保育を振り返り、省察をしている。保育環境整備については、教諭は、子どもの発達に応じた環境の在り方や、遊具・教材の研究を行い、保育環境を整え、日々の保育に活かしている。そして、園児の育ちに応じて必要である遊具・教材は教師会で検討して購入している。また、遊具は使用不可になった場合は随時買い替えを行い、教材が不足した場合も随時補充を行っている。

昨年度の改善の具体的方策に記した「違った視点からの保育内容について考える機会が必要である」から、3学期に外部講師を招聘して、保育参観をしていただき、午後から園内研修を行った。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

一人ひとりの教諭が本園のキリスト教保育の理念を理解し、保育計画を立案し、保育を行っている。「キリスト教主義教育」の項目でも述べたが、今年度は、「神様、イエス様に愛された子どもたち一人ひとりに『まなざし』を向けて保育する」ことに特に気をつけながら、保育の省察のポイントとして「自主的に育つ」「共に育つ」「喜びを持って育つ」をあげ、子どもが育ちを振り返っている。

そのことが功を奏して、本年度も子どもたち一人ひとりの発達に応じて、園生活の中で自主的、意欲的に活動する姿が確認できた。また、教諭のアンケート結果からも保育理念から保育計画を立案し、子どもの意欲、主体性を育む保育内容を実践していることが分かる。

登降園時の保護者と教諭との会話からも、子どもの意欲、主体性を育む保育内容であること、保育環境が充実していると判断できる。また、アンケートは、98%の保護者が肯定的に回答している。

教諭は、日々の保育を省察することで、保育の質を高めている。また、教諭が、日々意識を持ち遊具・教材研究していることが、教諭全員の肯定的な回答結果として現れている。

3学期に外部講師を招聘しての保育参観・研修会により、教育課程、保育内容、子どもへの関わり等について様々な視点が与えられ、更なる充実が図られると考えられる。

#### 改善の具体的方策

教諭、保護者も高い評価をしていることから、現在行っていることを継続し、深めていく姿勢が必要である。また、違った視点からの保育内容について考える機会が必要である。

昨年度の公開保育、今年度の外部講師を招聘しての園内研修会、また、他園の保育参観、研究会などを通して、教諭一人ひとりが研鑽し、園全体の保育の質を高めていきたいと考えている。

#### 第三者評価／学校関係者評価

- 教育課程・教育方針やその実践について、一般に理解されるよう明確にされています。また、保護者に対して園通信、ホームページ等で発信することを継続して、保護者からも高く評価されており優れています。日頃の活動での保護者の具体的な意見を大切にしてお応している様子が大変良く分かります。
- 年間の保育計画、指導のあり方について、丁寧に計画、実践、評価、改善を繰り返して、保育に臨まれていることが大変優れています。キリスト教主義教育の視点に立って、子どもの具体的な姿を伝え合って、子どもを見る目が保育者の中に、更に確立していく事が望まれます。また、一人ひとりの保育者の理解と個性的な関わりを明らかにして、保育者同士の協力関係を探っていくことの議論や保育者の共通理解に立つ園全体での研究活動を行っていくことが期待されます。
- 各年度の評価を受け、外部講師を招聘して園内研修会を行われたことが大変評価できます。今までとは異なった取り組みですので、評価・分析・具体的方策では園全体の意見が集約されてもいいかと思えます。新しい試みに対して丁寧に評価・分析を行い、課題を明確にして、次年度に向けて、例えば「教諭一人ひとりが研鑽」「園全体の保育の質を高める」にはどのような取り組みが必要か、より具体的な方策を示されることが望まれます。
- 幼稚園の教育については、保護者から高い評価を受けており、子どもたちも楽しいと感じていることがうかがわれ、評価できます。今後とも、日々の保育の中あるいは外部から学びつつ、一層充実した内容となるよう期待しています。
- 経験豊富な教諭陣が日々丁寧な保育と研鑽を積み重ねており、それが子どもの成長や保育環境の充実につながっていることが大変評価できます。
- 教諭は「日々の保育を省察する」とあるが、具体的にどのような方法で行っているのかを示すことが望まれます。
- 「改善の具体的方策」に「違った視点からの保育内容について考える機

会が必要」とあるが、それはどのようなことでしょうか。

- 理念を生かすべく、きめ細やかな保育実践がなされていると評価できます。自らの保育実践をより客観的に評価点検する上で、外部講師を招聘しての園内研修会や他園の保育参観は有意義だと思います。

## 学校評価シート

### 【保健管理】

#### 現状の説明

##### ○日常の健康管理、疾病予防の取組

年度が始まる前に、保護者に生活調査表（年度ごと）の記入をお願いし、一人ひとりの事前の健康状態の把握に努めている。そして、教諭、看護師他園内関係者全員で情報を共有している。対応が難しい場合は園医に相談している。

教諭は、子どもたちが登園してくると一人ひとりの健康状態を把握し、保育中も適宜心身の健康状態を見ながら保育を行うようにしている。体調に変化が見られた場合は、園長が確認し、看護師に診てもらっている。また、保護者とも、登降園の際に子どもの健康状態について連携をとり、健康管理を行うようにしている。

保育室の換気は常に気をつけている。

手洗い、うがい、衣服の調節等も習慣化できるように援助している。

##### ○園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組

園医が年1回の健康診断を行っている。また、流行性の疾病対応など、園医より随時丁寧な情報提供と指導を受けている。

園医は、本園保護者会を対象に小児の心肺蘇生法、AED講習、大人のAED講習等の救急法講習会を2月13日（水）に実施する予定である。

看護師は、日々、園児の欠席状況と欠席理由を把握している。怪我の手当、与薬など適切に行っており、病院に連れて行くかの判断についても園長・園医との相談によって丁寧に行っている。また、園医が随時保健だよりを発行している。

なお、看護師の体制については改善しているが、学校法人関西学院の一つの学校として保健管理の在り方、具体的には看護師の在り方を継続検討している。

##### ○家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進

西宮市教育委員会、兵庫県健康増進課、西宮市健康福祉局保健所健康増進グループ、園医（園医は地域で小児科を開業している）よりの予防、対処、予防接種の情報が伝達され、園内の掲示板にてそれらの情報を公開し、伝達している。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

##### ○日常の健康管理、疾病予防の取組

園児の健康状態を把握し、園医、看護師、教諭が情報を共有している。おやつを食べるのでアレルギー対応は一人ひとりに対して行っている。入園当初から、手洗い、うがいが身につくように丁寧に援助している。保育室は換気を常にしている。これらの日常の健康管理、疾病予防の取り組みは評価できると考えられる。アンケート結果も教諭全員と、保護者の96%

が肯定的な回答をしていることから取り組みが評価されたものと考えられる。

○園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組

前項でも記述したが、園医、看護師とは園児の健康状態の情報を共有している。その上で、対応についても指導を受けている。また、流行性の疾病対応も随時丁寧な情報提供と指導を受けている。等の連携は評価できると考えられる。そのことは教諭全員が肯定的な回答をしていることから裏付けられている。しかし、保護者の肯定的な回答が88%であるのは、園医、看護師と教諭が連携した健康管理、疾病予防の取り組みは、具体的に形に見えるものではなく、分かりにくい状況からだと考えられる。

○家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進

アンケート結果は、教諭全員と、保護者の94%が肯定的な回答をしている。しかし、「各関係機関からの情報は、園内の掲示板で公開し伝達している」については、幼稚園から積極的に働き掛けて関係機関と連携を図れていない。この点が課題である。

### 改善の具体的方策

○日常の健康管理、疾病予防の取組

現在行っている取り組みを継続すると共に健康状態は一人ひとり違うので、「一人ひとり」を意識していく。

○園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組

現在の連携を継続していく。また、看護師の体制については学校法人関西学院の一つの学校として、保健管理の在り方、具体的には看護師の在り方を継続検討していく。

○家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進

関係諸機関との連携は、積極的に幼稚園から働き掛けるかどうかも含め検討していく。

### 第三者評価／学校関係者評価

○昨年度の意見交換を受けて、園医、看護師、教諭それぞれの役割を明確にして保健管理の体制は順調に進展しています。園医、看護師との情報交換、疾病等の指導を受け、十分な連携の基にした日常の健康管理、疾病予防の取り組みが評価できます。ただ、アンケート項目「幼稚園は園医、看護師と連携して子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている」の「強くそう思う」の回答が昨年、今年共に低いことについて、評価・分析では「具体的に形に見えないから」と考察されいながら、そのことについての改善の具体的方策が記されていないことは残念です。

○子どもたちの健康管理を行っていくためにも、関西学院の一つの学校として、保健管理の在り方の検討、特に看護師の在り方についての検討を

積極的に行うことが期待されます。

- 保護者の認識や意識を高めるためにも、保護者会にて救急法講習会を行われることは大変評価できます。
- 家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進について、幼稚園から積極的に働き掛けて関係機関と連携を図れていない点が課題であると考察していますが、改善の具体的方策では、「関係諸機関との連携は、積極的に幼稚園から働き掛けるかどうかも含め検討していく」とあります。働きかけるかどうかの検討と共に、難しい課題とは思いますが、具体的にどのように働きかけていくかの方策を企図することが求められます。
- アンケートから見ると、保健管理は、比較的、課題があるかもしれない領域のように思われます。教諭一人ひとりが少しずつでも、子どもの健康問題について知識などを増やしていくと、保健管理についての園全体の取り組み能力も高まるのかもしれませんが。
- 流行性疾患や感染症、アレルギー等、子どもの健康管理への関心が高まる中で、その管理や予防の取り組みについては保護者も肯定的に受け止めており、評価できます。しかし、園医や看護師、各関係機関との連携については、さらに積極的な働きかけによる連携と情報提供が望まれます。
- 昨年からの検討事項である看護師のあり方については、できるだけ早い解決が求められます。
- 子どもたちの健康管理に関して、概ね丁寧かつ細やかな対応がなされていると評価できます。ただ、「園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組」あるいは「家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進」に関する保護者へのアンケートの結果が他のアンケート結果に比べて肯定的な回答がやや低くなっています。対応を考える際には、保護者の理解の不足によるものか、園の努力不足によるものか、その原因、背景についての見極めが必要と思います。

## 学校評価シート

### 【保護者、地域との連携】

#### 現状の説明

本園は、登降園時は保護者が送迎をすることになっているので、教諭と保護者が直接に顔を合わせて話し合いの時間が持てるようになっている（登園時は連絡事項程度）。教諭は、この時間に保育中の子どもの様子を伝えたり、家庭での様子について伺ったりと、保護者と子育てや教育に関するコミュニケーションをとっている。この連携は、良い子育て、教育の鍵となる事柄として重要視している。

子どもの育ちを理解してもらうための保育参観日は学期ごとに1回ずつ行っている。参観日の後は、各担任が降園時に保護者に声をかけ、子どものことについて話し合いを持っている。また、保育参観日以外にも個別対応し参観を行っている。

クラス懇談会は、年少・年中組は1学期と3学期に、年長組は1学期に行っている。個人懇談会は、年少・年中組は2学期に、年長組は2学期と3学期に行っている。

地域の子どもたちへの園庭開放は、地域の未就園児は保育を行っている日（日曜日、行事等を行っている日は除く）の8時30分～17時まで、小学生は小学校が終わった後～17時まで行っている。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

家庭との連携は、子どもの育ちに関して非常に重要な要素である。教諭が保護者と、日々の登園、降園時やクラス・個人懇談で子どもの育ちについて具体的な話をしていること、アンケートでは教諭全員が肯定的に回答していること、また、保護者のアンケートも95%近くが肯定的に回答していることから連携はできていると考えられる。

地域との連携の一つである地域の未就園児の園庭開放は、情報をホームページに掲載しているので電話等の問い合わせが増えてきた。また、幼稚園の入口に園庭開放の時間を表示しているので、幼稚園の前を通った親子が園庭で遊んで帰ることがある。未就園児対象の子育て事業「せいわ子どもの園であそぼう」でも園庭開放の情報を伝えているので、対象の親子が園庭開放を利用している。

地域の小学生は、昨年度までは卒園児が大半を占めていたが、今年度は卒園児に加えて、卒園児以外の小学生も園庭に遊びに来ている。

アンケートは、教諭全員と、保護者の90%が肯定的に回答している。

以上のことから考えると地域の連携の一つである本園の園庭開放は、情報発信により園庭開放を利用しやすいオープンな雰囲気をつくっていると考えられる。

## 改善の具体的方策

家庭との連携は現状ではできていると考えられるが、これで十分であるわけではない。今後も慢心することなく現在行っていることを省察し、保護者と良い連携ができるようにしていく。

今後も近隣の子どもたちの遊び場事情を考えて園庭開放を継続していく。また、他の形の地域との連携を模索していきたい。

## 第三者評価／学校関係者評価

- 登降園時における保護者との話し合いの時間に、保護者との連携を密にして、子育て支援に力を注いでいることが評価されます。聖和幼稚園が大切にしていることの一つとして、保育者がそれぞれ工夫して、保護者一人ひとりと関わる機会を持っていることは評価できます。
- 学期ごとの保育参観、個別対応した保育参観、クラス懇談会、個人懇談と保護者が園での子どもの様子を知る機会や、保育者とのコミュニケーションを密にする機会が多く計画していることが評価されます。それらを実施した結果は評価・分析に表れていませんが、詳しく評価・分析して、次の保育参観や懇談会等に生かしていくことを期待します。
- 改善の具体的な方策に「園庭開放を継続し、他の形の地域との連携を模索していきたい」とありますが、「～したい」という表現になっています。具体的な方策を企図することを期待します。
- 保護者との連携は重要ですが、ほぼ肯定的な評価を得ており、評価できます。ほとんど問題ないと思いますが、コミュニケーションが一層深められるようにするとよいでしょう。園庭開放については、利用者の声を聞かれていたら、地域との連携の意義がより一層わかるでしょう。
- 家庭との連携については、保育者との信頼関係の中でコミュニケーションがとれていることがアンケート結果にも反映されており、評価できます。
- 家庭との連携が「まだ十分ではない」という反省があるが、具体的にどのようなことが考えられるのかを示すことによって新たな改善点がみえてくると思われれます。
- 家庭との連携については、日々の登園、降園時の保護者とのコミュニケーションの積み重ねが効果を挙げていると思われれます。なお、本年度実施された在園児保護者対象の「聖和幼稚園保育内容・保育サービスについての調査」は、保護者の園への期待や要望を知る上で、有意義な試みと思います。今後の保育活動の改善への活用が期待されます。
- 地域との連携では、地域の未就園児の園庭利用の増加が見られる点で成果が上がっていると評価できます。

## 学校評価シート(重点的な課題)

### 【子育て支援】

#### 重点的に改善に取り組む課題

- ①幼稚園児の遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。
- ②子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。

#### 具体的な取り組み内容

- ①幼稚園児の遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。
  - ・幼稚園児に関しては保育日（日曜日は除く）の保育後～17時まで園庭開放を行い、保護者と共に子どもたちが遊べるようにしている。また、春休み、夏休み、冬休みの長期休暇に関しても日にちを決め、9時から17時まで行っている。
  - ・地域の未就園児に関しては、保育を行っている日（日曜日、行事等を行っている日は除く）の8時30分～17時まで、園庭開放を行っている。
- ②子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。
  - ・本園では、登降園時保護者が送迎をすることになっているので、教諭と保護者が直接に顔を合わせて話し合いの時間が持てるようになっている（登園時は連絡事項程度）。教諭は、この時間に保育中の子どもの様子を伝えたり、家庭での様子について聞いたり、保護者と子育てや教育に関するコミュニケーションをとっている。この連携は、より良い子育て、教育の鍵となる事柄として重要視している。また、必要な場合は家庭に訪問して相談を受けることも行った。
  - ・保護者からの申し入れがあれば、担任、補助教諭、園長、副園長と子育て・発達相談ができるようにしている。
  - ・発達相談においては、専門的な視点で相談できる心理士に指導をお願いしており、職員室前に「子育て相談箱」を置いて、保護者からの希望があれば園を仲介して個別相談することが可能になっている（心理士は月4回以上来園）。

#### 取り組み内容に関する評価・分析

- ①幼稚園児の遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。

保育後の園庭開放は、保育後そのまま残り、各家庭のその日の事情に応じて利用されている。一度帰宅してから来られる方もいる。また、他園に通う幼稚園児も親子で遊びに来ることもある。

在園児の弟、妹が園庭で親子（平均して10組ほど）で遊び、また、地域の未就園児の親子、放課後に近隣の小学生がほぼ毎日遊びに来ている。

園庭開放に関する問いに対するアンケート結果は、保護者は97%、教諭は100%が肯定的な回答をしている。

このようなことから本園の園庭開放が地域の遊び環境の問題点等からの

地域ニーズに対応できていると考えられる。そして、本園の園庭が、近隣の子どもの遊び場（子どもの園）と定着してきていると考えられる。

②子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。

昨年度の学校関係者評価「子育てについて、発達相談については機会を設けているが、違った形で保護者に問いかける工夫、保護者から意見を吸い上げる工夫が必要である。難しい事柄であるが、努力していくことが必要である」を受けて、今年度は、前年度に加えて保護者が子どもの育ちについて、子育てについて相談しやすいように「子育て相談箱」を設置した。その結果、心理士・園長との個別相談は15件（1月現在）ある。

子育て・発達相談に関する問いに対する保護者のアンケート結果は、肯定的な回答が87%（昨年度は82%）であるが、今後も保護者一人ひとりが、子どもの育ちについて、子育てについて相談しやすくなるよう努力していく必要がある。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 近隣の子どもを対象として園庭開放を行い、様々な形で地域社会の子育て支援を担っていることが大変評価できます。聖和幼稚園の特色の一つである自然教育を生かした環境の中での園庭開放は保護者の評価も得て順調に進展されています。
- 今回、重点的な課題として園庭開放を取り上げられたにもかかわらず、記載内容が、昨年、一昨年の子育て支援の「取組み内容」「評価・分析」とほとんど変わらないことが残念です。アンケート等で示された数値も大切ですが、親子での参加数は昨年より少なくなっていることもあり、それよりもどのようなことに力を入れているかを示してもいいかと思われます。現在、自然教育を念頭に置いた環境のもとで行われている園庭開放について、どのように遊び環境を熟慮して何を目的として子育て支援に取り組んでいるかを具体的に示し、またそのことの評価・分析をされることを期待します。
- 登降園時における保護者との話し合いの時間を大切に、保護者との連携を密にして、子育て支援に力を注いでいることが評価されます。聖和幼稚園が大切にしていることの一つとして、保育者がそれぞれ工夫して、保護者一人ひとりに配慮して関わる機会を持たれていることが大変優れています。
- 発達相談については、継続して取り組んでいられることが評価できます。また、新たに「子育て相談箱」を設置して、より改善が進んでいます。保護者の子育てを支えていくための方策をこれからも検討していかれることを期待しています。
- 保育後の園庭開放については、保護者の中でやや否定的な回答をされている方がわずかながらおられるのが気がかかります。理由がわかると参考になるかもしれません。

- 「子育て相談箱」は、結果として15件の個別相談があったようで、必要性のあったことがうかがえ、取り組みが評価できます。
- 保育後の園庭開放が地域の遊び場として定着してきていることは評価できます。
- 遊び場を利用する在園児やその弟・妹、未就園児、小学生の具体的な数字をあげることによって、その効果や課題が分かりやすくなると思われます。
- 発達相談については、「子育て相談箱」の設置による改善がみられます。今後も保護者が安心して利用できるよう工夫・努力することが望まれます。
- 子育て相談、発達相談に関する昨年度の学校評価をうけて、新たな課題設定（相談を随時受けられる体制の整備）を行い、具体的な方策を講じ（「子育て相談箱」の設置）、成果を挙げられました。自己評価を通じた自己改善のサイクルが働いていて、評価できます。

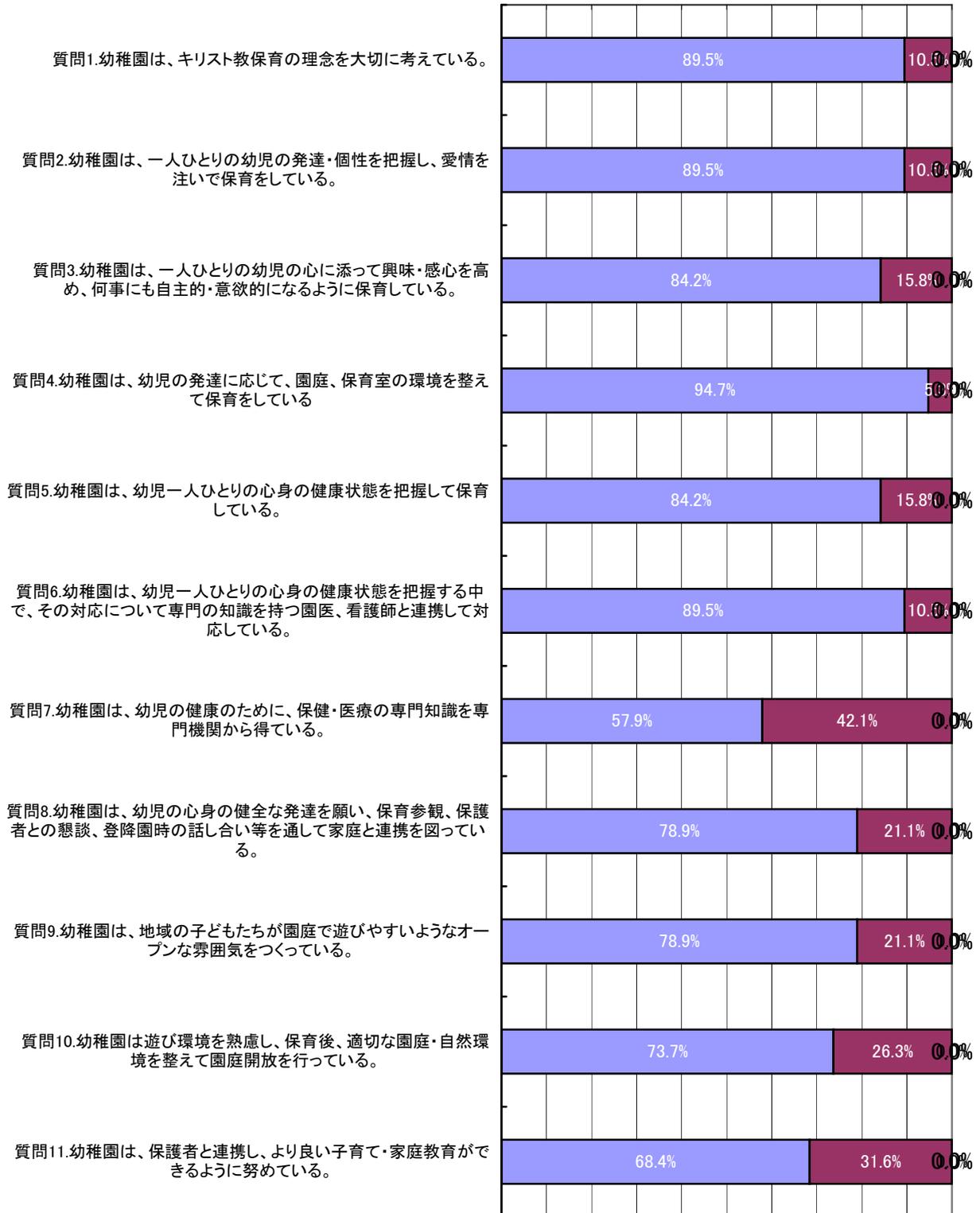
2012年度 学校評価 実施項目一覧（聖和幼稚園）

大項目	小項目	目標	指標(教員用)	指標(保護者用)
幼稚園全般				1. 子どもは、幼稚園に行くのが楽しいと感じている。 2. 幼稚園の教育には満足している。
1. キリスト教主義教育 (継続)	キリスト教保育の理念の共有	教職員間でキリスト教保育の理念を共有する	1. 幼稚園は、キリスト教保育の理念を大切に考えている。	3. 幼稚園は一人ひとりの子どもたちを大切にしているキリスト教保育の考え方を、手紙、保護者会講演会、ホームページ等を通して保護者に伝えている。
	キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践	一人ひとり幼児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする	2. 幼稚園は、一人ひとりの幼児の発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている。	4. 幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている。
2. 教育課程・指導 (継続)	各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助	幼児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する	3. 幼稚園は、一人ひとりの幼児の心に添って興味・感心を高め、何事にも自主的・意欲的になるように保育している。	5. 幼稚園は、子どもたちの意欲や主体性を育む保育をしている。
		環境(人的・物的)を通しての保育を実践する	4. 幼稚園は、幼児の発達に応じて、園庭、保育室の環境を整えて保育をしている	6. 幼稚園は、子どもたちの発達に応じて、保育者がかかわり、また、園庭、保育室の環境を整えて保育をしている
3. 保健管理 (継続)	日常の健康管理、疾病予防の取組	幼児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防の指導を行う。	5. 幼稚園は、幼児一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育している。	7. 幼稚園は、子どもたちの心身の健康状態を把握して保育している。
	園医、看護師との連携による健康管理、疾病予防の取組	保育者の対応できない怪我、疾病等について園医、看護師に相談して最善の対応をする。	6. 幼稚園は、幼児一人ひとりの心身の健康状態を把握する中で、その対応について専門の知識を持つ園医、看護師と連携して対応している。	8. 幼稚園は、園医、看護師と連携して子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。

	家庭、地域、保健・医療機関との連携による健康増進	流行性の疾病等について専門機関と連携をして、正確な情報を得て、園児・保護者に対応する。	7. 幼稚園は、幼児の健康のために、保健・医療の専門知識を専門機関から得ている。	9. 幼稚園は、園医、医療専門機関からの情報を掲示板、手紙等で伝達している。
4. 保護者、地域との連携 (新規)	保護者との連携	園の教育方針について理解を深め、園児の心身の健全な発達を願って園と家庭との連携を図る。	8. 幼稚園は、幼児の心身の健全な発達を願い、保育参観、保護者との懇談、登降園時の話し合い等を通して家庭と連携を図っている。	10. 幼稚園は、子どもたちの心身の健全な発達を願い、保育参観、保護者との懇談、登降園時の話し合い等を通して家庭と連携を図っている。
	地域との連携	地域の子どもたち（乳児から小学生）と共有できる環境を考慮して、園庭開放を行う。	9. 幼稚園は、地域の子どもたちが園庭で遊びやすいようなオープンな雰囲気をつくっている。	11. 幼稚園は、地域の子どもたちが園庭で遊びやすいようなオープンな雰囲気をつくっている。
5. 子育て支援 (重点)	園庭開放	幼稚園児の遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。	10. 幼稚園は遊び環境を熟慮し、保育後、適切な園庭・自然環境を整えて園庭開放を行っている。	12. 幼稚園は、子どもたちの遊び事情を考えて園庭開放を行っている。
	子育て・発達相談	子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。	11. 幼稚園は、保護者と連携し、より良い子育て・家庭教育ができるように努めている。	13. 幼稚園は、子どものこと、子育て、発達について相談ができる。

2012年度 学校評価アンケート集計結果  
(幼稚園・教員)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う

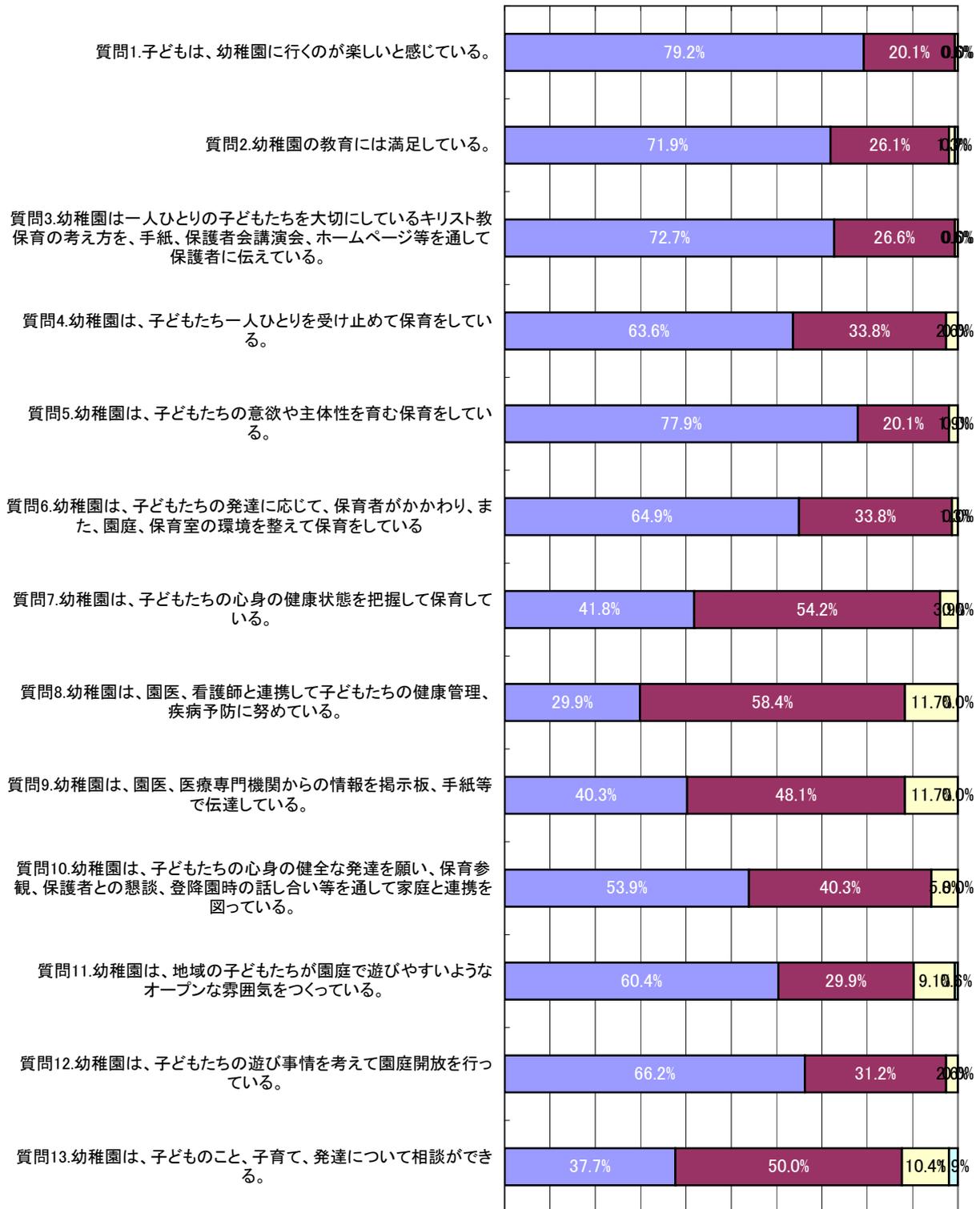
■ 回答番号2: どちらかといえば思う

□ 回答番号3: あまりそう思わない

□ 回答番号4: まったくそう思わない

2012年度 学校評価アンケート集計結果  
(幼稚園・保護者)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う

■ 回答番号2: どちらかといえば思う

□ 回答番号3: あまりそう思わない

□ まったく思わない